

令和 7 年度第 1 回奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要	
開催日時	令和 7 年 1 2 月 1 7 日（水）午前 1 0 時 0 0 分から 1 1 時 3 0 分まで
開催場所	奈良市役所 北棟 6 階 6 0 1 会議室
参 加 者	出席者 5 人、事務局 4 人
開催形態	公開 （傍聴人なし）
担 当 課	環境部 環境政策課
案 件	1. 「第 3 次奈良市環境基本計画」令和 6 年度実績評価コメントのとりまとめについて
資 料	【資料 1】令和 6 年度（2024 年度）実績評価コメントとりまとめ案 【資料 2】令和 6 年度（2024 年度）実績評価コメント 【資料 3】令和 6 年度（2024 年度）実績自己評価シート 【資料 4】令和 6 年度（2024 年度）指標評価結果一覧 【資料 5】「第 3 次奈良市環境基本計画」指標及び評価方法等
意見等の内容	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>（1）「第 3 次奈良市環境基本計画」令和 6 年度実績評価コメントのとりまとめについて</p> <p>「第 3 次奈良市環境基本計画」令和 6 年度（2024 年度）実績評価コメントのとりまとめについて、各指標に関する令和 6 年度実績及び担当課の自己評価に対して、参加者皆様からいただいたコメントを事務局で整理した。</p> <p>そのとりまとめ案及び総括コメントとりまとめ案について出席者に意見を求めた。</p> <p>○質疑・意見の要旨</p> <p>＜基本方針①（シート No. 1）について＞</p> <p>【No. 1】学校園での環境出前講座開催数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童数が減っていくなか、最終目標値が 150 講座というのはかなり厳しいのではないかと。現状維持の 127 講座は本当に素晴らしいが、最終目標値に近づくには何か具体的な対策が必要ではないか。このままだと、来年度も同じコメントになってしまう懸念がある。</li> <li>・ エコキッズの小学生は、自分たちが家庭でできることを中心に啓発を進めていっているが、これからは社会実装を進めていかなければならないので、中学生を対象にした</li> </ul>	

エコキッズの中学生版をやっていただけると良いかなと思う。例えば将来の就職など将来自分がこんな研究をして温暖化を止める、そのような仕事に就きたいなどのイメージを持ってもらえる教育ができればと思う。

- ・ 中学生はより社会的な繋がりというところで企業に入っていただくなど、小学生向けより難しい話もあると思うので、企業が出前授業という形で授業に入っていくのも良いのではないかな。全校で実施するのはハードルが高く、難しい部分があるが、そのような意識をもった教員が必要になると思う。

## <基本方針②（シート No. 3～5）について>

### 【No. 3】市域の温室効果ガス排出量

- ・ コメントとりまとめ案に「啓蒙」との言葉があるが、環境の分野ではあまり使わないので、「啓発」などの表現に変えたほうが良い。
- ・ コメントとりまとめ案に「若い世代」とあるが、若い人たちに対してだけではないので、「あらゆる世代」などという表現に修正したほうが良いのではないかな。
- ・ 省エネ・再エネ施設設置の事業所向け補助金を推進する事業は、指標3か指標4のどちらに含まれているか。

→指標3にも含まれることになる。

指標3は地域の温室効果ガス排出量であり、排出量の計算には関西電力によるCO2排出係数を使い、使用電力量から温室効果ガス排出量に換算される。

指標4は市内の再生可能エネルギーによる発電電力量であり、事業所向けの補助金などの事業はこちらの指標に対しても含まれていることになる。こちらの指標への影響が直接的なため、こちらがメインとなる。

- ・ 地域の電気使用量が減ってるのか、それとも増えてるのか。温室効果ガスの排出量は、関西電力の排出係数だけの問題なのか、地域全体では、電気使用量は減ってるのか。

→確認して回答する。

- ・ 福祉の視点からも環境の視点からも建物の断熱化はとても効果がある。WHO（世界保健機関）としては、18℃以下の室内に住むことは人権侵害との意識がある。断熱は、このような観点からは効果的である。これらは、環境政策課の問題だけではなく、住宅課や福祉課などにも関連するため横断的に実施すべき。
- ・ 環境や温室効果ガスの排出量を抑えるということが、人の健康であったり暮らしにプラスアルファになるという視点で、とりまとめコメントに「健康」というキーワードを入れていただきたい。

【No. 4】市内の再生可能エネルギーによる発電電力量

- ・ コメントとりまとめ案に、蓄電池設置等の施策も同時に推進していく必要があるといった内容が入っているので、「出力抑制」もとりまとめコメントに入れてほしい。
- ・ コメントとりまとめ案に「自家消費型太陽光発電の正確な把握」とあるが、「太陽光発電による自家消費電力量の正確な把握」とするほうが良いのではないか。
- ・ 再生可能エネルギーの発電電力量の最終目標値に対する数値がなかなか進んでいないように思う。2027 年度には、国の補助金も太陽光発電の方は無くなるような話が出ていて、より減速していくと思われる。太陽光発電だけでは最終目標値達成は厳しいので、別の再生可能エネルギーを含めカバーしていかなければと思う。また、断熱などで使用量を減らすなどにシフトしていかなければならない。

【No. 5】公共交通利用による観光入込客数

※主な議論はなし

＜基本方針③（シート No. 6～7）について＞

【No. 6】過去 5 年間の新たな認定新規就農者数

【No. 7】奈良県産学校給食地産地消率

- ・ 学校給食は安い値段でやっているの、高くても税金を投じてでも買っていかないと奈良県産学校給食地産地消率は上がらないだろうと思う。

＜基本方針④（シート No. 8～9）について＞

【No. 8】1 人 1 日あたりの家庭系ごみ搬入量

- ・ ごみ減量キャラバンについて、公民館でやっているの、来る人は年齢が高い女性が多いのだが、その人達に啓発してもすでにごみ減量を行っている。これも続けていかなければならないが、ごみ減量を知らない人達に対して再資源化の分別の啓発をする必要がある。
- ・ 食品ロスから排出された温室効果ガスが約一割を占められているため、食品ロスを防ぐところはまだまだたくさんあるので、重点的にやっていただきたい。
- ・ コメントとりまとめ案に「～いい。」との表現があるが、「～良いと思われる。」等の表現に変えたほうがよい。

【No. 9】事業系ごみ搬入量

- ・ 企業としては、バイオガス発生装置の販売を進めている。廃棄物をもとにバイオガス

を発生させ利用するものだが、そのもととなる廃棄物については、下水残渣や食品残渣はほぼそのまま利用できるが、ごみは色々なものが混じっており分別する必要がある。その分別に手間と費用がかかるので、なかなか広く普及しないという現状がある。

- ・ コメントとりまとめ案に「～いい。」との表現があるが、「～良いと思われる。」等の表現に変えたほうがよい。

#### <基本方針⑤（シート No. 10～12）について>

##### 【No. 10】 大気環境基準達成率

※主な議論はなし

##### 【No. 11】 河川 BOD 環境基準達成率

※主な議論はなし

##### 【No. 12】 グリーンサポート制度による公園管理率

- ・ 実績値が横ばい傾向であるので、達成目標に向かうにはもう一歩何かが必要ではないか。参加者が減っているわけではないが、高齢者は集まってきている状況であり、若年層も参加できるような体制にしていかなければと危惧している。

#### <全分野の総括について>

- ・ コメントとりまとめ案の評価のところ「加速する温暖化への更なる施策展開を期待する」とあり、温暖化のみについて書かれているが、温暖化も含めた「豊かで持続可能な暮らしが生まれるまちづくり」のような文を入れたほうが良い。
- ・ 環境基本計画は多岐の分野にわたっているので、指標を1つ1つに分けるのが良いことなのかは難しいところである。
- ・ まちづくりとは環境政策だけではないので、それにはいわゆる人的配置や予算措置などを手厚くしてほしいと市役所に対して求めている。事業をしようにも職員は業務多忙でできない。やはり、予算や人的配置をしっかりとしてほしい。そうでないと計画は進まないと言いたい。このような内容、具体的には「人的配置」などのキーワードをとりまとめコメントにも含めてほしい。

以上